

# 黒潮町人事行政の運営等の状況

(平成25年度)

平成26年4月

黒 潮 町

## 1. 職員の任用及び職員数に関する状況

### 1 任用の状況

#### (1) 採用者数

平成25年度に新たに採用された職員の状況は、次のとおりです。

区 分	採 用 者 数
事 務 職	5
技術職（土木）	2
保 健 師	—
合 計	7

※採用者には、臨時的任用職員及び非常勤職員は含まれておりません。また、再任用職員の採用はありません。

#### (2) 退職者数

平成24年度に退職した職員の状況は、次のとおりです。

区 分	退 職 者 数				合 計
	定 年	勸 奨	普 通	そ の 他	
事 務 職	4	3	2		9
保 健 師					
保 育 士			2		2
技術職（医師）			1		1
技 能 職	1				1
合 計	5	3	5		13

※退職者には、臨時的任用職員及び非常勤職員は含まれておりません。

### 2 職員数の状況

#### (1) 部門別職員数の状況と主な増減理由

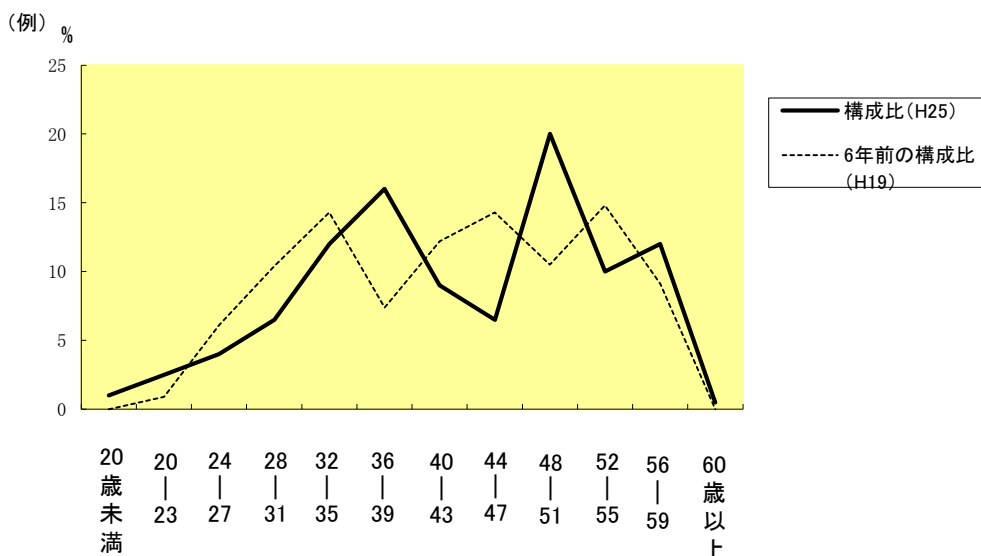
(各年4月1日現在)

部 門	区 分	職 員 数		対前年 増減数	主 な 増 減 理 由
		平成24年	平成25年		
普 通 会 計 部 門	議 会	2	2		
	一 般 行 政 部 門				
	総務	43	42	△ 1	欠員不補充
	税務	9	9		
	民生	58	56	△ 2	欠員不補充
	衛生	13	13		
	農林水産	13	13		
商工	6	6			
土木	16	16			
	小 計	160	157	△ 3	
	教育部門	26	23	△ 3	民間委託、事務の縮小
	小 計	26	23	△ 3	
会 公 営 部 門 企 業 等	病 院				
	水 道	4	4		
	そ の 他	14	14		
	小 計	18	18		
合 計		204	198	△ 6	
		[267]	[267]		

(注) 1 職員数は一般職に属する職員数である。

2 [ ]内は、条例定数の合計である。

(2) 年齢別職員構成の状況 (平成25年4月1日現在)



区分	20歳未満	20歳～23歳	24歳～27歳	28歳～31歳	32歳～35歳	36歳～39歳	40歳～43歳	44歳～47歳	48歳～51歳	52歳～55歳	56歳～59歳	60歳以上	計
職員数	2人	5人	8人	13人	24人	32人	18人	13人	40人	20人	24人	1人	200人

(3) 定員管理の数値目標及び進捗状況 (計画終了)

①平成17年4月1日～平成22年4月1日における定員管理の数値目標

平成17年4月1日職員数	平成22年4月1日職員数	純減数	純減率
246人	224人	22人	8.9%

(参考) 黒潮町集中改革プランにおける定員管理の数値目標 (数・率)

計画期間		数値目標
始期	終期	
平成17年4月1日	平成22年4月1日	22人の純減

②定員管理の数値目標の年次別進捗状況 (実績) の概要

区分 部門	職員数 増減	17年	18年	19年	20年	21年	22年	B計	A(参考) 数値目標	A-B	【達成率】
		計画始期	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目				
一般行政	職員数	194	189	179	175	174	169	169	176	7	
	増減		△5	△10	△4	△1	△5	△25	△18	7	
教育	職員数	30	29	27	25	24	26	26	28	2	
	増減		△1	△2	△2	△1	2	△4	△2	2	
消防	職員数										
	増減										
公営企業 等会計	職員数	22	20	25	22	21	20	20	20		
	増減		△2	5	△3	△1	△1	△2	△2		
計	職員数	246	238	231	222	219	215	215	224	9	140.9%
	増減		△8	△7	△9	△3	△4	△31	△22	9	

(注) 1 計画期間は、17年～22年の5年間である。

2 増減は、各年の欄にあっては対前年比の職員増減数を、計の欄にあっては計画1年目以降現年までの職員増減数の累計を示す。

## 2. 職員の給与の状況

### 1 総括

地方公務員の給与は、国及び他の地方公共団体の給与等を考慮し定めており、議会の審議を経て決定されています。

#### (1) 人件費の状況（普通会計決算）

区分	住民基本台帳人口 (平成24年度末)	歳出額 A	実質収支	人件費 B	人件費率 B/A	(参考) 平成24年度の人件費率 %
	人	千円	千円	千円	%	
24年度	12,734	8,405,978	90,059	1,644,726	19.6	18.1

#### (2) 職員給与費の状況（普通会計決算）

区分	職員数 A	給与費 B				一人当たり 給与費 B/A 千円	(参考) 類似団体平均 H24年度一人当たり給与費 千円
		給料 千円	職員手当 千円	期末・勤勉手当 千円	計 千円		
24年度	185	716,011	74,146	254,730	1,044,887	5,648	5,572

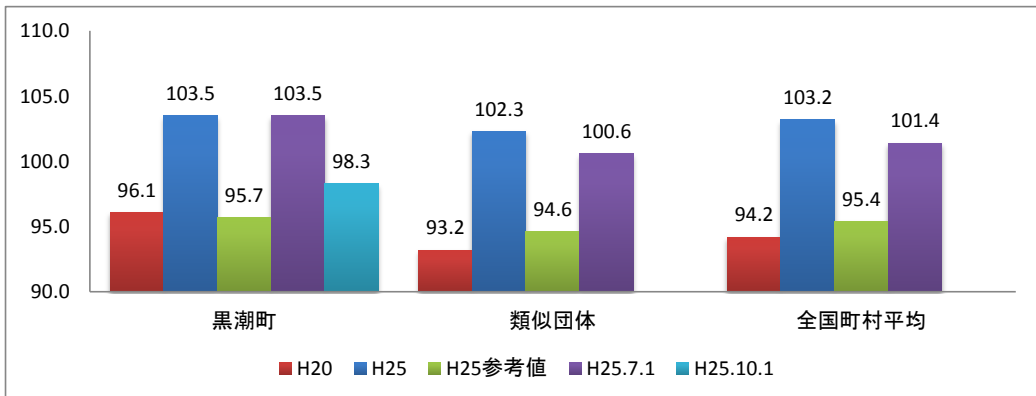
(注) 1 職員手当には退職手当を含まない。  
2 職員数は、平成24年4月1日現在の人数である。

#### (3) 特記事項

##### (給与減額の状況)

国の要請を踏まえた減額措置の取組	減額実施期間
実施	平成25年10月1日 ~ 平成26年3月31日
抑制済又は減額措置の内容	
(給料) H25.4.1ラスパイレス指数：103.5 減額措置 6級：6.3%減額、5級及び4級：5.3%減額、3級：4.3%、2級及び1級：2.3% 減額後 (H25.10.1) ラスパイレス指数：98.3	
(手当) 国の基準値より下位のため未実施	

#### (4) ラスパイレス指数の状況（各年4月1日現在）



(注) 1. ラスパイレス指数とは、国家公務員の給与水準を100とした場合の地方公務員の給与水準を示す指数である。  
2. 類似団体平均とは、人口規模、産業構造が類似している団体のラスパイレス指数を単純平均したものである。  
3. 「参考値」は、国家公務員の時限的な（2年間）給与改定特例法による措置が無いとした場合の値である。

#### (5) 給与改定の状況（人事委員会は置いていません。）

##### ①月例給

区分	人事委員会の勧告				給与改定率	(参考) 国の改定率
	民間給与 A	公務員給与 B	較差 A-B	勧告 (改定率)		
20年度	円	円	円	%	%	%

(注) 「民間給与」、「公務員給与」は、人事委員会勧告において公民の4月分の給与額をラスパイレス比較した平均給与月額である。

##### ②特別給

区分	人事委員会の勧告				年間支給月数	(参考) 国の年間 支給月数
	民間の支給 割合 A	公務員の 支給月数 B	較差 A-B	勧告 (改定月数)		
20年度	月	月	月	月	月	月

(注) 「民間の支給割合」は民間事業所で支払われた給与等の特別給の年間支給割合、「公務員の支給月数」は期末手当及び勤勉手当の年間支給月数である。

## 2 職員の平均給与月額、初任給等の状況

(1) 職員の平均年齢、平均給料月額及び平均給与月額の状況（平成25年4月1日現在）

### ①一般行政職

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国ベース)
黒潮町	41.6 歳	309,624 円	353,350 円	325,224 円
高知県	43.4 歳	330,578 円	390,281 円	351,179 円
国	43.1 歳	307,220 円	—	376,257 円
類似団体 (H24.4.1時点)	43.3 歳	316,727 円	356,723 円	343,588 円

### ②技能労務職

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額 (A)	平均給与月額 (国ベース)
黒潮町	48.9 歳	349,948 円	370,128 円	361,752 円
うち学校給食員	— 歳	— 円	— 円	— 円
うち校務員	47.8 歳	343,340 円	360,930 円	355,250 円
うち自動車運転手	49.8 歳	354,467 円	383,900 円	371,634 円
うちその他	50.2 歳	356,513 円	376,464 円	366,201 円
高知県	55.2 歳	324,582 円	351,571 円	336,342 円
国	49.9 歳	272,119 円	— 円	309,534 円

区 分	民 間			A/B
	対応する民間 の 類似職種	平均年齢	平均給与月額 (B)	
黒潮町	—	— 歳	— 円	—
うち学校給食員	調理師	— 歳	— 円	—
うち校務員	用務員(男)	52.8 歳	201,100 円	1.79
うち自動車運転手	自家用自動車 運転手	47.7 歳	239,700 円	1.60
うちその他	—	— 歳	— 円	—

区 分	参 考		
	年収ベース (試算値) の比較 (千円)		
	公務員 (C)	民間 (D)	C/D
黒潮町	—	—	—
うち学校給食員	#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!
うち校務員	4,331	2,752	1.57
うち自動車運転手	4,607	3,618	1.27
うちその他	4,518	—	—

- (注) 1 「平均給料月額」とは、H25年4月1日現在における各職種ごとの職員の基本給の平均である。  
 2 「平均給与月額」とは、給料月額と毎月支払われる扶養手当、地域手当、住居手当、時間外勤務手当などのすべての諸手当の額を合計したものであり、地方公務員給与実態調査において明らかにされているものである。また、「平均給与月額 (国ベース)」は、国家公務員の平均給与月額には時間外勤務手当、特殊勤務手当等の手当が含まれていないことから、比較のため国家公務員と同じベースで再計算したものである。  
 3 年収ベースの「校務員 (C)」及び「民間 (D)」のデータは、それぞれの平均給与月額を12倍したもので、公務員は前年度に支給された期末・勤勉手当、民間においては、前年度に支給された年間賞与の額を加えた試算値です。

(2) 職員の初任給の状況（平成25年4月1日現在）

区 分		黒潮町	高知県	国
一般行政職	大 学 卒	161,600 円	172,500 円	172,200 円
	高 校 卒	141,200 円	140,400 円	140,100 円
技能労務職	高 校 卒	125,400 円	142,200 円	137,200 円
	中 学 卒	— 円	129,500 円	129,200 円

(3) 職員の経験年数別・学歴別平均給料月額状況（平成25年4月1日現在）

区 分		経験年数10～15年	経験年数15～20年	経験年数20～25年
一般行政職	大 学 卒	264,476 円	299,225 円	— 円
	高 校 卒	217,100 円	270,357 円	312,507 円
技能労務職	高 校 卒	— 円	— 円	— 円
	中 学 卒	— 円	— 円	— 円

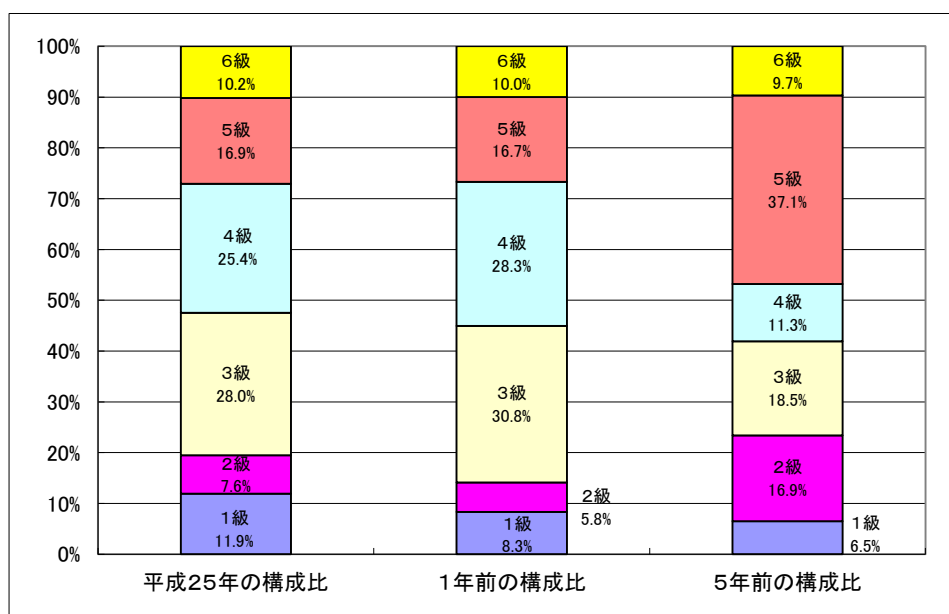
※金額が入っていない所は、該当者がいないためです。

### 3 一般行政職の級別職員数等の状況

#### (1) 一般行政職の級別職員数の状況（平成25年4月1日現在）

区分	標準的な職務内容	職員数（人）	構成比（％）
1級	主事及び主事補	14	11.9
2級	主査	9	7.6
3級	主幹	33	28.0
4級	係長又はこれに相当する職務	30	25.4
5級	課長補佐又はこれに相当する職務	20	16.9
6級	課長又はこれに相当する職務	12	10.2

- (注) 1 黒潮町の給与条例に基づく給料表の級区分による職員数である。  
 2 標準的な職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職務である。



#### (2) 昇給への勤務成績の反映状況

勤務成績は半期ごとに行い、勤勉手当に反映させているが、直接「昇給」への反映は行っていません。

#### 4 職員の手当の状況

##### (1) 期末手当・勤勉手当

黒潮町		高知県		国	
1人当たり平均支給額 (H24年度) 1,376 千円		1人当たり平均支給額 (H24年度) 1,544 千円		—	
(24年度支給割合) 期末手当 2.6 月分 (1.4) 月分 勤勉手当 1.35 月分 (0.65) 月分		(24年度支給割合) 期末手当 2.6 月分 (1.4) 月分 勤勉手当 1.30 月分 (0.65) 月分		(24年度支給割合) 期末手当 2.6 月分 (1.5) 月分 勤勉手当 1.35 月分 (0.65) 月分	
(加算措置の状況) 役職加算 5~15% 管理職加算 10%以内		(加算措置の状況) 役職加算 5~20% 管理職加算 10~20%		(加算措置の状況) 役職加算 5~20% 管理職加算 10~25%	

(注) ( )内は、再任用職員に係る支給割合である。

〔参考〕 勤勉手当への勤務実績の反映状況

勤務評価を実施しており、成績率により支出を行っています。

##### (2) 退職手当 (平成25年4月1日現在)

黒潮町			国		
(支給率)	自己都合	勸奨・定年	(支給率)	自己都合	勸奨・定年
勤続20年	23.03 月分	28.7875 月分	勤続20年	23.03 月分	28.7875 月分
勤続25年	32.83 月分	38.955 月分	勤続25年	32.83 月分	38.955 月分
勤続35年	46.55 月分	55.86 月分	勤続35年	46.55 月分	55.86 月分
最高限度額	55.86 月分	55.86 月分	最高限度額	55.86 月分	55.86 月分
その他の加算措置 定年前早期退職特例措置 (2~20%)			その他の加算措置 定年前早期退職特例措置 (2~20%)		
・勸奨退職	3名	1人当たり平均支給額 27,877千円			
・定年退職	2名	1人当たり平均支給額 25,600千円			
・その他あ	5名	1人当たり平均支給額 15,947千円			

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、平成24年度に退職した職員に支給された平均額である。

##### (3) 地域手当・・・該当なし

(平成24年4月1日現在)

支給実績 (年度決算)		千円	
支給職員1人当たり平均支給年額 (20年度決算)		円	
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	国の制度 (支給率)
	%	人	%
	%	人	%
	%	人	%



## (4) 特殊勤務手当（平成24年4月1日現在）

支給実績（平成24年度決算）		4,154 千円	
支給職員1人当たり平均支給年額（平成24年度決算）		188 千円	
職員全体に占める手当支給職員の割合（平成24年度）		11.1 %	
手当の種類（手当数）		10 種類	
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価
税務手当	税務課職員	徴税の賦課、徴収事務	月額5,000円を超えない範囲
感染症防疫作業手当	従事した職員	感染症が発生した場合の救護、 感染症菌の処理作業	月額1,000円を超えない範囲
改装作業手当	従事した職員	墓地移転に伴う死体、焼骨を移す 確認作業に直接従事した場合	月額1,000円を超えない範囲
死体処理手当	従事した職員	行路病人、身よりが無いもの等の 死体処理作業に直接従事した場合	月額1,000円を超えない範囲
地籍調査手当	地籍調査係職員	境界の調査、確認及び立会作業に 直接現場で従事した場合	月額800円を超えない範囲
保健師手当	保健師	保健衛生の巡回・相談指導、集団 検診等の業務に従事することを 本職とする	月額5,300円を超えない範囲
看護師手当	看護師	診療所に勤務する看護師	月額5,300円を超えない範囲
衛生センター勤務手当	勤務する職員	衛生センターに勤務する職員	月額5,000円を超えない範囲
医師手当	拳ノ川診療所に勤務する 医師	著しく危険等又は困難な勤務、そ の他の著しく特殊な勤務及び研究 研修を行うために、給与上特別の 考慮を必要とし、かつ、その特殊 性を給料で考慮することが適当で ないと認められる医師	月額150,000円
研究研修手当	拳ノ川診療所に勤務する 医師	著しく危険等又は困難な勤務、そ の他の著しく特殊な勤務及び研究 研修を行うために、給与上特別の 考慮を必要とし、かつ、その特殊 性を給料で考慮することが適当で ないと認められる医師	月額100,000円

## (5) 時間外勤務手当

支給実績（24年度決算）	20,913 千円
職員1人当たり平均支給年額（24年度決算）	103 千円
支給実績（23年度決算）	38,680 千円
職員1人当たり平均支給年額（23年度決算）	186 千円

※時間外手当には、休日勤務手当を含む。

## (6) その他の手当（平成25年4月1日現在）

手 当 名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績 (24年度決算)	支給職員1人当たり 平均支給年額 (24年度決算)
扶養手当	・配偶者 13,000円 ・配偶者以外の扶養親族 1人6,500円 ・配偶者のいない扶養親族のうち1人11,000円、16 ～22歳までの子1人につき 5,000円加算	同		千円 20,913	千円 170
住居手当	借家で家賃12,000円を超える場合、家賃に応じて 27,000円を限度支給	同		9,963	262
通勤手当	自宅からの距離が2km以上の 場合、距離に応じて 2,000円～24,500円支給	同		12,012	78
管理職手当	管理又は監督の地位にある 職員に対して支給（定額 34,000円（支所長・総務課長・参事40,000円）	異	国は20%を超えない範囲	6,002	400

手当名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績 (24年度決算)	支給職員1人当たり 平均支給年額 (24年度決算)
休日勤務手当	祝日法による休日等及び年末年始の休日の勤務について、勤務1時間当たりの給与額に1.25～1.50乗じて得た額	同		千円 —	千円 —
夜間勤務手当	22時～翌日5時までの勤務を命じられた場合、勤務1時間当たりの給与額の1.25	同		—	—
管理職特別手当	管理職手当を支給されている職員が休日等に勤務した場合に支給10,000円(6時間を超える場合加算)	同		195	24
初任給調整手当	診療所に勤務する医師で、採用による欠員の補充が困難であると認められるもの(月額365,500円支給)	同		4,386	4,386

## 5 特別職の報酬等の状況(平成25年4月1日現在)

区分		給料月額等		
給料	町長	648,900 円 ( 721,000 )	(参考) 類似団体における最高/最低額 792,300 円 / 353,500 円	
	副町長	596,600 円 ( 628,000 )	657,400 円 / 326,400 円	
	収入役	— 円 ( — )	円 / 円	
	議 長	254,000 円	326,000 円 / 199,000 円	
報酬	副 議 長	202,000 円	269,000 円 / 171,000 円	
	議 員	180,000 円	250,000 円 / 157,500 円	
	町 長	(平成24年度支給割合)		
期末手当	副町長	2.95月分		
	教育長			
退職手当	議 長	(平成24年度支給割合)		
	副 議 長	2.95月分		
	議 員			
	町 長	(算定方式)	(1期の手当額)	(支給時期)
退職手当	副町長	給与月額×在職年数×500/100	14,420,000	任期毎
	副町長	給与月額×在職年数×300/100	7,536,000	任期毎

(注) 1 給料及び報酬の( )内は、減額措置を行う前の金額である。

2 退職手当の「1期の手当額」は、4月1日現在の給料月額及び支給率に基づき、1期(4年=48月)勤めた場合における退職手当の見込額である。

## 6 公営企業職員の状況

### (1) 水道事業

#### ① 職員給与費の状況

##### ア 決算

区 分	総費用	純損益又は 実質収支	職員給与費	総費用に占める 職員給与費比率	(参考) H23年度の総費用に占 める職員給与費比率
	A		B	B/A	
24年度	千円 188,290	千円 1,039	千円 24,704	% 13.1	% 12.9

区 分	職員数 A	給 与 費				一人当たり 給与費 B/A	(参考) 類似団体平均 一人当たり給与費
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B		
24年度	人 4	千円 14,791	千円 1,488	千円 5,269	千円 21,548	千円 5,387	千円 6,258

- (注) 1 職員手当には退職給与金を含まない。  
2 職員数は、平成25年3月31日現在の人数である。

##### イ 特記事項

特になし

#### ② 職員の基本給、平均月収額及び平均年齢の状況 (平成24年4月1日現在)

区 分	平均年齢	基本給	平均月収額
黒潮町	43.4 歳	328,930 円	483,754 円
団体平均	45.2 歳	353,532 円	520,694 円

(注) 平均月収額には、期末・勤勉手当等を含む。

#### ③ 職員の手当の状況

##### ア 期末手当・勤勉手当

黒潮町		黒潮町 (一般行政職・団体平均等)	
1人当たり平均支給額 (平成24年度) 12,720 千円		1人当たり平均支給額 (平成24年度) 1,376 千円	
(平成24年度支給割合) 期末手当 2.6 月分 勤勉手当 1.35 月分 ( 1.4 ) 月分 ( 0.65 ) 月分		(平成24年度支給割合) 期末手当 2.6 月分 勤勉手当 1.35 月分 ( 1.4 ) 月分 ( 0.65 ) 月分	
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 有		(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 有	

(注) ( )内は、再任用職員に係る支給割合である。

[参考] 勤勉手当への勤務実績の反映状況

勤勉手当への勤務実績の反映については、管理職が平成19年8月から、一般職が平成19年12月から実施。

勤務成績は、「特に優秀」「優秀」「良好」「良好でない」の4段階に区分。

成績率は、職務について監督する地位にある者による勤務成績の証明に基づき、成績区分に応じて任命権者が決定する。

##### イ 退職手当 (平成24年4月1日現在)

黒潮町			黒潮町 (一般行政職・団体平均等)		
(支給率)	自己都合	勸奨・定年	(支給率)	自己都合	勸奨・定年
勤続20年	23.03 月分	28.7875 月分	勤続20年	23.03 月分	28.7875 月分
勤続25年	32.83 月分	38.955 月分	勤続25年	32.83 月分	38.955 月分
勤続35年	46.55 月分	55.86 月分	勤続35年	46.55 月分	55.86 月分
最高限度額	55.86 月分	55.86 月分	最高限度額	55.86 月分	55.86 月分
その他の加算措置			その他の加算措置		
定年前早期退職特例措置 (2~20%)			定年前早期退職特例措置 (2~20%)		
1人当たり平均支給額		該当なし 千円	1人当たり平均支給額		25,600 千円

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、平成24年度に退職した職員に支給された平均額である。

ウ 地域手当 ……該当なし

支給実績（平成 年度決算）			千円
支給職員1人当たり平均支給年額（平成 年度決算）			円
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	一般行政職の制度（支給率）
	%	人	%

（22年度の制度完成時）

支給対象地域	支給率	一般行政職の制度（支給率）
	%	%

（注）国の制度では、平成22年度での完成を目指して、平成18年度から支給率を段階的に引き上げることとしている。

エ 特殊勤務手当 ……無し

支給実績（平成24年度決算）	千円
支給職員1人当たり平均支給年額（平成24年度決算）	円
職員全体に占める手当支給職員の割合（平成24年度）	%
手当の種類（手当数）	

オ 時間外勤務手当

支給実績（平成24年度決算）	278 千円
職員1人当たり平均支給年額（平成24年度決算）	69 千円
支給実績（平成23年度決算）	500 千円
職員1人当たり平均支給年額（平成23年度決算）	125 千円

（注）時間外勤務手当には、休日勤務手当を含む。

カ その他の手当（平成24年4月1日現在）

手当名	内容及び支給単価	一般行政職の制度と異なる内容	支給実績（平成24年度決算）	支給職員1人当たり平均支給年額（平成24年度決算）
扶養手当	一般行政職と同	同	641 千円	213 千円
住居手当	一般行政職と同	同	324 千円	324 千円
通勤手当	一般行政職と同	同	246 千円	61 千円

### 3. 職員の勤務時間その他の勤務条件の状況

#### 1. 勤務時間

##### (1) 勤務時間

職員の勤務時間については、4週間を超えない期間につき1週間あたり38.75時間としており、公務の運営上の事情により特別の形態によって勤務する必要のある職員を除き、その勤務時間は月曜から金曜までの5日において1日につき7時間45分としています。また一般的な職員の勤務時間は、午前8時30分から午後5時15分までとなっており、休憩時間は、午後0時から午後1時までとなっています。

##### (2) 週休日と休日

週休日とは勤務時間を割り振らない日をいい、原則として毎週日曜日及び土曜日が週休日となっています。休日とは、正規の勤務時間において勤務を要しない日をいい、国民の祝日に関する法律に規定する休日又は年末年始の休日をいいます。

#### 2. 休暇の種類

職員の休暇には、年次有給休暇、病気休暇、特別休暇、介護休暇、組合休暇があります。

##### (1) 年次有給休暇

年次有給休暇は、一年ごとに付与する休暇で、その日数は一年において20日となっており、1日又は1時間単位で取得することができます。また年次有給休暇は当該年の翌年に20日を超えない範囲内の残日数を繰越することができます。

##### (2) 病気休暇

職員が負傷又は疾病のため療養する必要があり、その勤務しないことがやむを得ないと認められる場合の休暇です。

ア. 労働安全衛生法（昭和47年法律第57号）第68条の規定に基づき厚生労働省令で定められた疾病にかかっている期間

イ. 前号以外の疾病（予防注射又は予防接種による著しい発熱等の場合を含む。）又は負傷について、医師の証明等に基づき必要必要最小限度の期間

ウ. 公務によらない結核性疾患では1年以内

エ. その他の私傷病にあつては、引き続き90日以内を超えない期間。ただし、脳血管疾患、虚血性心疾患、じん臓疾患、糖尿病、悪性新生物又は精神疾患にあつては、さらに引き続き60日以内で延長可。

(3) 特別休暇

	場合	期間
1	職員が選挙権その他公民としての権利を行使する場合で、その勤務しないことがやむを得ないと認められるとき。	必要と認められる期間
2	職員が証人、鑑定人、参考人等として国会、裁判所、地方公共団体の議会その他官公署へ出頭する場合で、その勤務しないことがやむを得ないと認められるとき。	必要と認められる期間
3	職員が骨髄移植のための骨髄液の提供希望者としてその登録を実施する者に対して登録の申し出を行い、又は骨髄移植のため配偶者、父母、子及び兄弟姉妹以外の者に骨髄液を提供する場合で、当該申出又は提供に伴い必要な検査、入院等のため勤務しないことがやむを得ないと認められるとき。	必要と認められる期間
4	職員が自発的に、かつ、報酬を得ないで次に掲げる社会に貢献する活動（専ら親族に対する支援となる活動を除く。）を行う場合で、その勤務しないことが相当であると認められるとき。 （1）地震、暴風雨、噴火等により相当規模の災害が発生した被災地又はその周辺の地域における生活関連物資の配布その他の被災者を支援する活動 （2）身体障害者療護施設、特別養護老人ホームその他の主として身体上若しくは精神上の障害がある者又は負傷し、若しくは疾病にかかった者に対して必要な措置を講ずることを目的とする施設であって町長が定めるものにおける活動 （3）前2号に掲げる活動のほか、身体上若しくは精神上の障害、負傷又は疾病により状態として日常生活を営むのに支障がある者の介護その他の日常生活を支援する活動	1の年において5日の範囲内の期間
5	職員が結婚する場合で、結婚式、旅行その他の結婚に伴い必要と認められる行事等のため勤務しないことが相当であると認められるとき。	結婚の日の5日前の日から当該結婚の日後6月を経過する日までの期間内における連続する7日の範囲内の期間
6	8週間（多胎妊娠の場合にあっては、14週間）以内に出産する予定である女子職員が申し出た場合	出産の日までの申し出た期間
7	女子職員が出産した場合	出産の日の翌日から8週間を経過する日までの期間 （産後6週間を経過した女子職員が就業を申し出た場合において医師が支障がないと認めた業務に就く期間を除く。） ただし、産前の休暇が8週間（多胎妊娠の場合にあっては、14週間）に満たなかった場合は、その満たなかった日数を前段の期間に加えることができる。
8	生後1年に達しない子を育てる職員が、その子の保育のために必要と認められる授乳等を行う場合	1日2回それぞれ30分以内の期間（男子職員にあっては、その子の当該職員以外の親が当該職員がこの項の休暇を使用しようとする日におけるこの項の休暇（これに相当する休暇を含む。）を承認され、又は労働基準法（昭和22年法律第49号）第67条の規定により同日における育児時間を請求した場合は、1日2回それぞれ30分から当該承認又は請求に係る各回ごとの期間を差し引いた期間を超えない期間）

9	職員が妻（届出をしないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む。事項において同じ。）の出産に伴い出産に係る入院若しくは退院の際の付添い、出産時の付添い又は出産に係る入院中の世話、子の出生の届出等のため勤務しないことが相当であると認められる場合	職員の妻の出産に係る入院等の日から当該出産の日後2週間を経過する日までの期間内における3日（再任用短時間勤務職員にあっては、16時間）の範囲内でその都度必要と認める日又は時間（再任用短時間勤務職員にあっては時間）
10	職員の妻が出産する場合であって、当該出産に係る子又は小学校就学の始期に達するまでの子（妻の子を含む）を養育する職員がこれらの子の養育のため勤務しないことが相当であると認められるとき。	職員の妻の出産予定日の8週間（多胎妊娠の場合にあっては、14週間）前の日から当該出産の日後8週間を経過する日までの期間内における5日（再任用短時間勤務職員にあっては、40時間にその者の勤務時間（当該勤務職員に1時間未満の端数がある場合にあっては、これを切り上げた時間）を40時間で除して得た数の時間とする。）の範囲内でその都度必要と認める日又は時間
11	小学校就学の始期に達するまでの子（配偶者の子を含む。）を養育する職員が、その子の看護（負傷し、又は疾病にかかった子の世話をを行うことをいう。）のため勤務しないことが相当であると認められる場合	1の年において5日の範囲内でその都度必要と認める日又は時間
12	要介護者の介護その他の町長が定める世話をを行う職員が、当該世話をを行うため勤務しないことが相当であると認められる場合	1の年において5日（要介護者が2人以上の場合にあっては、10日）の範囲内でそのつど必要と認める日又は時間
13	職員の親族が死亡した場合で、職員が葬儀、服喪その他の親族の死亡に伴い必要と認められる行事等のため勤務しないことが相当であると認められる場合	親族に応じた連続する日数（葬儀のために遠隔地に赴く場合にあっては、往復に要する日数を加えた日数）の範囲内の期間
14	職員が父母、配偶者及び子の追悼のための特別な行事（父母、配偶者及び子の死亡後15年以内に行われるものに限る。）のため勤務しないことが相当であると認められる場合	1日の範囲内の期間、
15	職員が夏季における盆等の諸行事、心身の健康の維持及び増進又は家庭生活の充実のため勤務しないことが相当であると認められる場合	1の年の7月から9月までの期間内における、週休日、休日及び代休日を除いて原則として連続する5日の範囲内の期間
16	地震、水害、火災その他の災害により職員の現住居が滅失し、又は損壊した場合で、職員が当該住居の復旧作業等のため勤務しないことが相当であると認められるとき。	7日の範囲内の期間
17	地震、水害、火災その他の災害又は交通機関の事故等により出勤することが著しく困難であると認められる場合	必要と認められる期間
18	地震、水害、火災その他の災害時において、職員が退勤途上における身体の危険を回避するため勤務しないことがやむを得ないと認められる場合	必要と認められる期間
19	地方公務員法（昭和25年法律第261号）第42条の規定によりあらかじめ計画された能率増進計画の実施	計画の実施に伴い必要と認められる期間
20	女子職員の生理（生理日において勤務することが著しく困難である者が請求した場合）	必要と認められる期間。ただし、1日を超えるときは、その超える期間については、第14条第1項第2号の規定による。

21	妊産婦である女子職員の健康検査及び保健指導（妊娠中の女子職員及び産後1年を経過しない女子職員が母子保健法（昭和40年法律第141号）第10条に規定する保健指導又は同法第13条に規定する健康審査を受ける場合）	妊娠満23週までは4週間に1回、妊娠満24週から満35週までは2週間に1回、妊娠満36週から出産までは1週間に1回、産後1年まではその間に1回（医師等の特別の指示があった場合には、いずれの期間についてもその指示された回数）について、それぞれ、1日の正規の勤務時間等の範囲内で必要と認められる時間
22	妊娠中の女子職員の通勤緩和（妊娠中の女子職員が通勤に利用する交通機関の混雑の程度が母体又は胎児の健康保持に影響があると認めるとき。）	正規の勤務時間等の始め又は終わりにおいて、1日を通じて1時間を超えない範囲内でそれぞれ必要とされる時間

(4) 介護休暇

職員が配偶者、父母、子、配偶者の父母などで、負傷、疾病又は老齢により規則で定める期間にわたり日常生活を営むのに支障があるものの介護をするため、勤務しないことが相当であると認められる休暇で、2週間以上6ヶ月以内の期間で取得できます。（取得期間中は、給与を減額します。）

(5) 組合休暇

職員が任命権者の許可を得て、正規の勤務時間中に給与の支給を受けずに登録された団体の業務に従事する場合の休暇です。1年において30日を超えない範囲内で1日又は1時間単位で取得することができます。

## 4. 職員の服務の状況

### 1. 年次有給休暇の取得状況

平成24年の職員の年次有給休暇の取得状況は次のとおりです。

黒潮町	対象職員	平均取得日数
	218人	11.58日

### 2. 育児休業・部分休業・介護休暇の取得状況

(1) 育児休業

◇平成24年度中に新たに育児休業を取得した職員

区分	育児休業 取得者数	育児休業者数				
		3月未満	3月以上6月未満	6月以上12月未満	12月以上	36月
男性職員						
女性職員	6			6		
合計	6			6		

(2) 部分休業・・・・・・1人

(3) 介護休暇・・・・・・該当無し

◇平成24年度の職員の介護休暇の取得状況

区分	介護休暇 取得者数	要介護者数						
		配偶者	父母	子	配偶者の父	祖父母	兄弟姉妹	孫
男性職員								
女性職員								
合計								

区分	介護休暇 取得者数	要介護者数					
		1月以下	1月超2月以下	2月超3月以下	3月超4月以下	4月超5月以下	5月超
男性職員							
女性職員							
合計							



### 3. 職務義務免除の状況

短期人間ドック、運転業務者の免許更新、その他

### 4. 営利企業従事許可の状況・・・該当なし

## 5. 職員の分限及び懲戒処分

### 1. 分限処分

分限処分とは、一定の理由がある場合に、職員の意に反する不利益な身分上の変動をもたらす処分をいい、その処分としては、休職、意に反する降任、免職等があります。

◇平成24年度分限処分の状況・・・該当なし

処分の事由	降任	免職	休職
勤務成績不良の場合			
心身の故障の場合			
その他			

### 2. 懲戒処分

懲戒処分とは、職員の一定の義務違反に対する道義的責任を問うことにより公務における規律と秩序を維持することを目的とする処分をいい、その処分として戒告、減給、停職、免職があります。

◇平成24年度懲戒処分の状況・・・該当なし

## 6. 職員の研修

### ①こうち人づくり広域連合関係研修

研修名	受講人数
平成24年度新採職員研修	4人
基本研修(管理職)	9人
基本研修(一般職)	10人
採用5年目研修	2人
採用10年目研修	7人
係長研修	5人
課長補佐研修	4人
課長研修	2人
議会事務局職員研修	2人
意識改革セミナー	1人
これからの自治体経営のあり方研修	1人
危機管理研修	1人
滞納整理事務研修	1人
事例で学ぶ民法研修	1人
地域づくり研修	1人
企業決算書の見方研修	1人
人事研修担当者研修	1人
広報技術向上研修	3人
公会計財務書類活用研修	1人
パソコン(集合)研修	5人

②その他の研修

研修名	受講人数
第59回四国地区人権教育研究大会	17人
第39回「部落差別をなくす運動」強調旬間事業	5人
第40回黒潮町泊まり合い人権教育研修会	21人
第55回幡多地区人権教育研究大会	18人
第52回四国地区人権教育夏期講座	4人
第7回黒潮町人権教育研究大会	65人
黒潮町人権教育推進講座	17人
第54回高知県人権教育研究大会	13人
幡多地区人権フェスティバル	4人
第64回全国人権・同和教育研究大会	7人
第7回黒潮町人権教育集約大会	23人
職員人権研修	119人
職員防災研修	171人

## 7. 職員の福祉及び利益の保護の状況

職員の安全と健康を確保し、労働安全対策を行う体制を整備します。また、各種健康診断を実施しています。実施状況については、次のとおりです。

### 1. 労働安全衛生管理体制

職場安全衛生委員会	設置	実施済み
-----------	----	------

### 2. 健康診断の実施

定期健康診断	実施済み
人間ドック	実施済み
特殊健康診断	実施済み

### 3. メンタルヘルス対策事業・・・・・・・・未実施

### 4. 共済・互助会制度

制度名	加入組合	町の負担金支出額（給与特別会計）
共済制度	高知県市町村職員共済組合	221,627千円
互助会制度	高知県市町村職員互助会	4,457千円

### 5. 公務災害の発生状況

公務災害認定数	町長部局	教育委員会	その他
	1	1	